

巻頭言

成長とともにアップデートし続ける人材であることを期待して



熊本県立第二高等学校長

森田 淳士

第二高校のSSH事業も、今年度で23年目となりました。残念ながら昨年度チャレンジした先導改革Ⅱ期の申請は叶わず、経過措置期間となりました。再度の先導的改革Ⅱ期の指定に向け、様々なSSH事業の改善に取り組みながらの1年間でした。また、今年度の途中で発表されたSSH制度の改革で、今後の第二高校のSSHの方向性も明確になりました。第二高校のSSHでの立ち位置が少しずつ変化はしますが、

高校生の課題解決能力を育成し、社会貢献できる人材の育成に取り組んでいくことには変わりはありません。また、協働の取組で効果を上げている熊本サイエンスコンソーシアム（以下KSC）の活動も更なる深化・拡大をさせていく必要があります。関係機関や加盟校との連携強化で、様々な不可能を可能にしていきたいと思えます。

さて、令和7年7月に東京大学工学部長の加藤泰浩教授の特別講演会がありました。熊本県、熊本県教育委員会とKSCが共同で開催したものです。ご存知の通り、加藤先生の大きな功績の一つに「太平洋の深海底にレアアースを含む泥の大鉱床の発見」があります。講演は、資源のない日本が資源のある国に変わっていくかもしれないと期待が大きくなり、今後の動向を注目したくなるような内容でした。令和8年の年明けにそのニュースを聞くことになりました。国産レアアースの開発実験のため、探査船「ちきゅう」が出航したとの内容でした。直接、加藤教授から話を聞いたこともあり、本当にうれしい気持ちでした。日本中の人たちが期待していると思えます。

私たちは生活の中で、様々な功績をあげる人たちから大きな感動を与えられることがあります。世界的に活躍するスポーツ選手やアーティストはもちろんのこと、科学者の活躍にも感動させられます。そして、科学技術の進歩は、感動だけでなく社会の利便性や国益などにも大きな影響を与えることもあります。しかし、科学者たちが進んできた道のりは、地道であきらめない活動がほとんどのようです。繰り返される失敗にも屈しない粘り強さに支えられているともいえます。また、どんな科学者も研究活動のスタートは高校生や大学生での些細な研究からだったと思えます。

第二高校の生徒たちは、SSH校でそれぞれの研究に取り組んでいます。これからの時代は著しく社会環境の変化が速い時代になります。生きていく限り様々な知識や技術をアップデートさせていく能力が問われます。みなさんの研究活動の取組や姿勢が、皆さんの人生をサポートし、大きな力となります。大きな功績まではいかずとも、人それぞれの目標を達成しながら充実感のある人生を進むことができるはずで、高校での経験を今後役に立て、さらにその能力を伸ばし続ける人材であってほしいと期待します。

最後になりますが、本事業にご支援・ご協力をいただきました文部科学省、科学技術振興機構、本校SSH運営指導委員会、県教育委員会、連携いただいております大学及び関係機関の皆様に厚く感謝申し上げます。